

『木づかい』を広げよう！ ～作って広める木の魅力発信プロジェクト～

北海道旭川農業高等学校 森林科学科 森林循環班

小野 晶登／奥州 優介／木下 晴稀／藤原 優真／堀井 歩夢／山根 完太

活動の背景・目的

国内の林業地の多くは伐採の適期を迎えていますが、国産材の利用は低い状況が続いており、利用も未だ十分ではありません。「樹木を伐って、使って、植えて、育てる」という森林循環サイクルは、木製品の生産利用により炭素の固定が促進され、森林の有する多面的機能の持続的発揮にも繋がることから、環境問題対策への具体的なアプローチです。

私たち森林循環班は地場産木材利用の促進による森林循環の適正化を目指し、林野庁の取り組む『ウッドチェンジの実践』を目標に、販売製品の製作と木工体験活動の普及に取り組んできました。

実践内容・成果

実践1 木工製品の製作・販売

木の魅力を伝える商品を作るため、演習林産を中心に上川地域・道内産木材を素材とし、製品の製造を行ってきました。試作ではペン立てや蔓かごなどの様々な製品が検討され、校内で行われた販売会にて販売を行いました。

中でも、エゾマツ材から作成したマグネットを封入したカプセルトイが人気で、「集めたくなる」「日常使いしやすい」など好感度であったため、その後もデザインや使用素材の改良を加えつつ、複数のイベントで販売を行い、高評価を得ることが出来ました。



【ペン立て】



【マグネットカプセルトイ（道産エゾマツ製）】

実践2 木工体験による木育の普及

木に触れて加工を体験してもらうことで、木の違いや加工の楽しさの魅力を知ってもらうために、地域産未利用材を活用した木工体験の運営・普及にも取り組みました。

子ども向けの体験活動として、小木の幹や枝を使ったキーホルダー作りを、大人向けの体験活動として、枝と100円ショップで買える素材から作るキーラックの制作体験を運営し、1年間で400人以上の方々に木工体験を提供することが出来ました。

体験の中では、節による模様の違いに気づく子どもや、木工を初体験したという大人の方など、木づかいによって、木の新たな魅力発見の場を提供することが出来ました。

【未利用材を使ったキーホルダー作り】

・まちなかキャンパス2023：令和5年6月17[土] ・かみかわの未来の森を守る「森林認証」展示会：令和5年11月18～19日[土・日]



【幹の円を利用したキーホルダー】



【枝と100円ショップ素材を使ったキーラック作り】

・PTA研修会：令和5年11月17[金]



入手した地域産木材

- 【演習林産木材】
 - > ミズナラ(代表的広葉樹)
 - > ヤチダモ
 - > トドマツ(代表的針葉樹)
- 【校内産木材】
 - > ナナカマド(旭川市のシンボル)
 - > イチイ
 - > ヤマガワ
- 【上川町産木材】
 - > イチヨウ
- 【北海道産木材】
 - > カエデ
 - > エゾマツ(代表的針葉樹)
- 【その他(地域産)木材】

今後の展開

今年度は様々な活動に挑戦することができましたが、これらの取り組みは始まったばかりで、製造時の課題や数値的データによる検証など改善点は数多く残っています。今年の成果や製造のノウハウをしっかりと後輩に引き継ぎ、次年度以降の活動に役立ててもらえることで、より多くの人に木の魅力を伝え、木づかいを広めることのできる活動にしていきたいです。

